

平成30年度第1回(栄養学・薬学・医学・歯学・看護学)分野連携グループ合同会議議事概要
(栄養学・薬学・医学・歯学)教育FD/ICT活用研究委員会
CCC看護学グループ運営委員会

- I. 日時 : 平成30年7月23日(月) 17:30~19:30
- II. 場所 : 私学会館(アルカディア市ヶ谷) 5階 穂高
- III. 出席者 : 栄養学教育FD/ICT活用研究委員会 酒井委員長、上田委員、由良委員、
鈴木委員(ネット参加)
薬学教育FD/ICT活用研究委員会 黒澤委員長、齊藤委員、西村委員、石川委員、
大嶋委員、松野委員
医学教育FD/ICT活用研究委員会 高松委員長、椎橋委員、渡辺委員(ネット参加)
歯学教育FD/ICT活用研究委員会 神原委員長、片岡委員、藤井委員、奥村委員
森實委員
CCC看護学グループ運営委員会 仲井委員、梶井委員、中山委員(ネット参加)
事務局 井端事務局長、森下主幹、中村事務局員

IV. 委員紹介

栄養学(鈴木委員、由良委員)、薬学(石川委員)はじめ5分野の出席委員から自己紹介が行われた。

V. 昨年度の報告と今年度の検討

1. 事務局より昨年度の事業について事業報告書をもとに以下のように報告された。

平成29年度は、30分野を6グループに再編し教育改善の研究を行った。対話集会では、学力の3要素を高めるためにICTを活用した教育・学修方法の工夫・改善、授業科目の相互改善を促進するための仕組みとICTの活用、ICTによる外部評価モデルの必要性和仕組みを中心に意見交換した。

その結果、①個別の授業科目でICTを活用したアクティブ・ラーニングは進んでいることを確認したが、知識の活用や創造を目指す分野連携によるICTを活用した授業までは議論が進まなかった。②ICTを用いて授業内容を可視化し、教員相互で理解し合う必要性が確認され、教学マネジメントの課題が明らかになった。③学修成果を質保証する手段としての外部評価モデルについては、文系・理系・医療系では総論賛成の意見が多かった一方、被服・美術デザイン分野では創造性の評価に適さないとの意見も出された。

2. 平成30年度の対話集会について

昨年度の振り返りを踏まえ本年度は、①アクティブ・ラーニング(AL)の質向上に向けたICTの活用を中心に、思考力・判断力を高める課題探求型教育の研究 ②ネット上で学内および地域社会・企業などによる外部からの意見を組み入れたオープンな教育改善の仕組みについて実現の可能性の探求 ③学修成果の質保証に向けたビデオ試問による外部評価モデルの仕組み、実現に向けた課題・対応策について認識の共有 ④多面的に考え、本質を見抜く能力を目指す授業モデルを研究するため、ICTを活用した分野横断的な授業モデルの研究成果を共有する中で、授業のイノベーションを実現していく上での課題、戦略について意見交換 としていた。

3. 対話集会の進め方

① 「話題提供」(1時間30分)と「意見交流」(2時間)の3時間30分を計画している。

② 「話題提供」は以下のような紹介が考えられる。件数は4件以内を計画している。

なお、質疑は話題提供後にまとめて15分程度設けるが、不足する場合は「意見交流」の最初に15分程度設ける。

- * 知識・技能の活用力・応用力を促進する ICT 活用授業
- * 問題発見・解決力を高める ICT 活用授業
- * ICT を活用した事前・事後学修、反転授業、地域連携授業
- * モバイル・SNS を活用した双方向授業
- * e シラバス、e ポートフォリオなどを活用した授業の可視化、学修成果の可視化
- * 授業改善をオープンに議論するポータルサイトの活用など

③ 「意見交流」のテーマは大枠として、以下の中から 3 件程度を考えてはどうか。

- ※ 知識・技能の活用・応用を促進する ICT 活用授業の取り組みと課題
- ※ 問題発見・解決力を高める課題探求型 ICT 活用授業の取り組みと課題
- ※ 双方向授業、事前・事後学修、反転授業、地域連携授業における ICT 活用の取り組みと課題
- ※ ネット上で学内外の意見を取り入れたオープンな教育改善実現の可能性と課題
- ※ ビデオ試問による外部評価モデルの仕組み、実現に向けた課題・対応策
- ※ 知識の創造を目指す分野横断型フォーラム授業の必要性和導入の課題

4. 今後の合同会議の検討スケジュール

(1) 第 1 回合同会議 (7 月)

- ① 本年度の対話集会の進め方について(事務局より説明)
- ② 話題提供候補の検討
(ICT を活用した分野別の実践事例又は教育改善提案の候補を選定)
- ③ 意見交流のテーマ検討
- ④ ビデオ試問による外部評価モデルの仕組み、実現に向けた課題・対応策の検討
- ⑤ 対話集会の開催日時・場所の検討
- ⑥ 参加呼びかけの強化

(2) 第 2 回合同会議 (10 月予定)

- ① 開催要項の確定
 - ・話題提供者の確定
 - ・意見交流のテーマ確定
 - ・開催日時・場所の決定
 - ・事前アンケートの内容決定
- ② ビデオ試問による外部評価モデルの仕組み、実現に向けた課題・対応策の検討
 - ・各グループでの検討状況の共有
 - ・各分野における課題・対応策の整理
- ③ 運営シナリオの検討と役割分担
※委員主体の運営シナリオを全員で作成

(3) 対話集会 (1 月予定)

- ① アンケート結果を踏まえた担当者との打ち合わせによる進め方の確認
 - ・時間配分と運営シナリオにおける意見交流の着地目標を再確認
- ② 対話集会の参加についてアンケート回収

以上の説明の後、各分野ごとに「話題提供候補」ほか対話集会の進め方について検討を行った。

5. 話題提供候補の検討

各分野から以下の説明があった。

(1) 栄養学分野

仮題「問題解決能力を高める科目横断型授業の提案」として、

- ・学生に課題を発見させる、気づかせる授業
- ・テーマに対し、独立している科目を組み合わせ学修する統合型授業について検討していることが報告された。

他分野委員からは、現場の教員に対する課題として提案し、対話集会参加教員に意識改革の必要性について共有を図ることが良いとの意見が出された。

さらに検討を進めていただくこととなった。

(2) 薬学分野

「e シラバス、e ポートフォリオを活用した授業および学修成果の可視化」について検討していることが報告された。

前々年度に ICT 発表会で評価された内容であるが、中教審将来構想部会の中間まとめなどを踏まえた「提案」として、将来に向けた内容として検討いただくことになった。

(3) 医学分野

話題提供案として「ループリックとeポートフォリオシステムによる臨床実習の評価」や、「LMS を用いた予習確認テスト、復習テスト」が組上に上がったことが報告されたが、医学分野として引き続き検討されることとなった。

(4) 歯学分野

話題提供案として「ICT を活用した分野横断型の課題発見解決型教育の提案」を検討していることが報告された。

- ・将来社会への課題に向け、ICT を活用し分野横断型で課題発見解決をおこなう教育が必要。
- ・教育を担う教員にとっては難しい課題である。
- ・AI の進化を考える時に、色々な分野の知識を組み合わせ ICT を活用した教育を考えなければならない。

などについて検討が必要であることも報告された。

(5) 看護学分野

仮題「自己・他者の観察を材料としたアクティブ・ラーニングの実践例」を検討していることおよび、アクティブ・ラーニングにより知識、技能だけでなく、学生同士が ICT 技術を活用し情報共しながら問題発見力や解決力を高める授業改善について検討していることが報告された。

分野ごとに話題提供内容について検討を進めていただき、話題提供シート書式にて提出することが確認された。

V. 対話集会の開催日時、場所についてほか

5分野の委員に諮った結果、

- ・対話集会開催日は1月26日(土)か、1月27日(日)の14時～17時30分(委員事前打合せは13時)次回(第2回合同会議)で決定することとなった。
- ・会場については帝京平成大学にて会場提供を検討いただくことになった。
- ・次回(第2回合同会議)は10月28日(日)15:00～17:00私学会館を予定することにしたが、会場都合によりTKP市ヶ谷カンファレンスセンターにて開催することとなった。